

# モンゴル語における馬の個体識別語彙

—— 主に毛色名を中心として ——

鯉 淵 信 一

## 目 次

1. はじめに
2. 外貌的特徴を指す語彙
  - (1) 毛色名 (zūis)
  - (2) 毛の部分的特徴
  - (3) 身体部の特徴
3. 馬の性別、年齢等を指す語彙
  - (1) 年齢を指す語彙
  - (2) 性と年齢をあわせて指す語彙
  - (3) 毛色と性をあわせて指す語彙
4. むすび

### 1. はじめに

モンゴル語は家畜、牧畜用語に関する語彙の豊富さを誇る言語のひとつに数えられている。有史以来、遊牧民族として家畜を飼育し、家畜とともに生活してきた世界であってみれば当然のことと言えるが、それにしても、伝統

的に家畜との係わりが薄い日本人から見ると、モンゴル語のその家畜関係語彙の豊かさ、複雑さには驚嘆させられる思いである。

モンゴルの社会、文化、言語などの理解には、かれらの生活基盤である牧畜の方法、牧畜あるいは家畜に関する語彙などの正しい把握が基本的な要件となる。しかし牧畜となじみの薄い日本人には、牧畜の全体像は言うに及ばず、部分的理解さえも容易ではない。これまで多くの研究者によって移動や放牧、乳加工といった遊牧形態面あるいは牧畜技術からのアプローチがなされてきたが、未だほとんど手の付けられていない分野も少なくない。

筆者は以前、モンゴル語における色彩語の整理を試みたことがある。<sup>(1)</sup> その過程でモンゴル人の色彩に対する認知と分類には、馬を中心とした家畜の毛色が重要な役割を演じていることを痛感させられた。つまり、馬の毛色の分類体系が基礎となって、モンゴル人の色彩分類の体系が、形成されているのではないかと思われたのである。

その時の調査では、日本の94色の色彩カードをサンプル提示して質問したが、モンゴル人の複数のインフォーマントは、実に敏感に反応し、色彩の専門家でも容易に分類しがたいようなあいまいな中間色をも明確に分類したのである。94色というと、色彩の専門家なら別として、一般人には不明な、表現の困難な色彩が少なくない。しかしかれらはほとんど即答したのである。かれらの色彩認知の焦点を考えるうえで、「それぞれの色は何に存在するか」と質問してみたところ、94色の内、約60色近い色が馬の毛色という回答であった。その他には動植物や諸物品名が挙げられたが、「馬の毛色」が圧倒的に多く、改めてモンゴル人の色彩認知、分類における馬の毛色の役割の大きさを知らされたのである。

そこで1年間のモンゴル滞在の機会(1985年9月~1986年10月)を利用し、<sup>(2)</sup>モンゴル語における馬の毛色を調べてみた。

モンゴル人は後述するように、馬の毛色を驚嘆すべき細かさで分類する。その数は400種とも500種ともいわれるが、外国人研究者はもとよりモンゴル

人研究者によっても、その全体像は明らかにされていない。

毛色名の全体が明らかでないので、今回の調査は牧民をはじめとしたモンゴル人からの直接聞き取り及び文献からの採集による毛色名の収集と、その毛色の特定に時間を費やした。毛色の特定は短期日の調査であったため実見できないものが多かったこと、また実見できても毛色は微妙で筆者のような素人目には判断しきれない色彩が少なくないことなどから、十分な結果は得られなかったが、毛色名は約200種を収集できた。また毛色名収集の過程で毛色以外の馬の個体識別に関する語彙も収集してみた。

そこで本稿では、モンゴルの家畜関係語彙の中でも最も幅広い語彙を持つといわれる馬の個体識別語彙を、毛色名を中心に整理してみることにした。

なお、モンゴルでの語彙調査・収集に当たっては1986年3月急逝されたモンゴル国立大学文学部の満州語学、文献学者・故 Ts.シャルフー氏の多大な御教授を頂いた。感謝とともに哀悼の意を表する次第である。また、いちいち名前を挙げないが、私の質問に快く応じてくれた多くの友人、草原の牧民の方々にも併せて感謝の意を表する次第である。

## 2. 外貌的特徴を指す語彙

モンゴル牧民は、自分の所有する馬群の数が500頭なのか600頭なのか正確に記憶になくても、1頭がいなくなると何歳の、どんな毛色の、どんな癖のある馬がいなくなったかがすぐ判るといふ。1牧民が把握できる頭数の多寡は別として、この例は牧民の馬群把握の方法が数を基準としたものでないということを表している。

馬は(他の家畜の場合も同じであるが)、1頭の去勢されていない種牡をリーダーとして30~50頭前後の群れをつくる。従って、500頭の馬群は10頭余りの種牡馬に率いられた小さな群れの集合体ということになる。牧民は各リーダーを中心とした群れ構成をしっかり記憶にとどめるのである。500頭をひ

とまとめて覚えるのではなく、各群れの構成ごとに1頭1頭の特徴をつかむわけである。

各群れの構成内の把握は性別、年齢、血統(母馬を中心とした)などが分類の基礎となっている。それに毛色、白徴、身体的特徴などの外貌の特徴、さらには駆歩、常歩などの歩様、性癖にいたるまでを加味して個体の認知、分類をしているのである。

以下に、これら外貌の特徴を(1)毛色名、(2)毛の部分的特徴、(3)身体部の特徴、の三つに分けて整理してみる。

#### (1)毛色名(züs)

馬の外貌の特徴を指す語彙の中心は毛色名である。この毛色名はモンゴル語で「züs」(jisu-n)と呼ばれ個体識別の基本的要素となっており、漠然と400種とも500種あるとも言われているが定かでない。同じ毛色でも、地方によって表現の異なるものが少なくないこと、人によって、この「züs」の範疇に毛の部分的特徴なども入れたりすることがあること、毛の部分的特徴を「züs」の範疇に入れる場合も、人によって入れる基準がまちまちであること、また何よりも、馬の毛色が極めて微妙なものであるために、整然と分類しきれない面をもっていることなどが、「züs」の数を明確にできない原因になっているように思われる。実際、筆者は調査の中で、同じ毛色の馬を、同じ牧民が日によって異なる毛色名で呼ぶといったことを何度か経験している。

しかしいずれにせよ、今回筆者が収集した毛色名(毛の部分的特徴を除いて)だけで約200種に達している。日本人が言いならわしてきた日本の毛色名を考えると、実に驚異的な数といえる。

これらの毛色名を分類してみると、後に列挙するように約20の基本毛色名をとともに、①基本毛色名のみのもの、②基本毛色名(補助毛色名的役割)+基本毛色名、③補助毛色名+基本毛色名、④固有名詞+基本毛色名、といった組み合わせで構成されていることが分かる。なお、ここで言う基本毛色名と

は、色彩用語における基本色名とは無関係で、モンゴルの毛色分類において基礎となるもの、換言すれば、それ単独で一毛色名となり得るものを指しており、補助毛色名とは、単独では毛色名になり得ないものを指している。

モンゴル語の馬の毛色名の特徴としては、同系統の毛色を極めて細かく分類すること、しかもその分類の多くが基本毛色名の組み合わせによってなされること、また、毛色それ自体をさす特定の語彙を豊富に有していることなどが挙げられる。

日本の場合が栗毛、雲雀毛、河原毛、糟毛、鼠毛、月毛、葦毛等々、そのほとんどが他の固有名詞を借用していることと考えあわせると際立った特徴を持っている。クロウソン (G.Clauson) はモンゴル語における毛色、馬体、馬具など馬に関する諸語のほとんどは、他の牧畜用語の多くがトルコ語からの借用語であるのに対して、純粋なモンゴル語に属していると指摘している<sup>(3)</sup>。これはモンゴル・日本両民族の馬との接触の深さ、歴史の違いなどを如実に表していると言えよう。

これまでモンゴル語の馬の毛色名を幅広く収集し、整理・分類した報告は卑見の限りでは出てないようである。そこで筆者の収集した毛色名を以下に列挙してみる。

ここではモンゴル語の毛色名のみを挙げてある。少なくとも基本毛色名程度は、それに対応する日本の毛色名を付したいと考えたが、なし得なかった。糟毛系統 = buural 系、青毛系統 = khar 系、などのように分類基準の似たものもあるが、栗毛系統 = zeerd 系は黒味が強くなって柝栗毛になると khüren 系統に属してしまい、鹿毛系統はモンゴルでは kheer と sharga の系統に分かれ、また日本で河原毛と月毛に区別している毛色は、モンゴルでは sharga 系統に属してしまうし、また bor 系などは、基本毛色名としては葦毛にあたるが、補助毛色名的役割としての bor は極めて幅広い色あいを持つものとしてとらえる必要があるなど、分類基準が大きく異なるものが少なくないため、単純に対比させ得なかったのである。

従って、日本の毛色名とモンゴルのそれとの対比は他の機会に譲り、ここではモンゴル語の毛色名を上述の分類に沿って提示することにとどめることにした。

① 基本毛色名

bor	buural
zeerd	saaral
ukhaa	khaliun
khar	khongor
khökh	khul
khüren	kheer
tsavidar	tsagaan
tsenkher	shar
sharga	shargal
yagaan	zagal
ulaan	*alag

\*alag は斑毛の総称であり、厳密には基本毛色名に入れるには疑問も残るが、馬識別の重要な分類の一つであり、一般的にモンゴル人も、他の部分にある小さな斑紋と区別して züs の中に入れているので基本毛色名に含めた。斑毛であるため、alag は他の毛色名が付されて bor alag, zeerd alag, kheer alag, yagaan alag というように呼称される。alag に多いのは khar, tsagaan, kheer, bor などであるが、他のほとんどの毛色にも現れるわけで、その種類は非常に多いものとなる。

borlog, kheerleg というように、毛色名に [log] (母音調和による変化がある) が付加される呼称があるが、これは [bor+alag] で [alag] の前の [a] が省略された形であろう。毛色としては alag と同じ斑毛であるが、斑が少しぼんやりしたものを指すようである。(地方によっては区別しない所もあるようである。) 単に「alag」という場合は、tsa-

gaan (白)に khar (黒)の斑が入ったものを指するのが一般的のようである。

②基本毛色名(補助的) + 基本毛色名

bor<sup>(4)</sup>系

khüren bor	buural bor
zeerd bor	khökh bor
tsagaan bor	tsenkher bor
khar bor	zagal bor
khaliun bor	ulaan bor
tsavidar bor	
buural 系	
khüren buural	khar buural
kheer buural	tsagaan buural
khökh buural	yagaan buural
khaliun buural	ulaan buural
zeerd 系	
khul zeerd	khongor zeerd
ukhaa zeerd	tsavidar zeerd
khaliun zeerd	buural zeerd
khüren zeerd	ulaan zeerd
saaral 系	
khar saaral	khaliun saaral
sharga saaral	zagal saaral
shar saaral	tsagaan saaral
khüren saaral	khökh saaral
bor saaral	ulaan saaral
khaliun 系	

bor khaliun	khar khaliun
ukhaa khaliun	saaral khaliun
zeerd khaliun	tsagaan khaliun
buural khaliun	khongor khaliun
khüren khaliun	khökh khaliun
tsavidar khaliun	shar khaliun
ukhaa 系	
khul ukhaa	
khar 系	
bor khar	zagal khar
zeerd khar	
khongor 系	
ukhaa khongor	shar khongor
khul khongor	tsavidar khongor
khar khongor	tsagaan khongor
khaliun khongor	buural khongor
zeerd khongor	zagal khongor
ulaan khongor	
khökh 系	
khar khökh	tsenkher khökh
tsagan khökh	zagal khökh
khul 系	
khar khul	tsagaan khul
shar khul	tsavidar khul
ukhaa khul	ulaan khul
zeerd khul	zagal khul
bor khul	



khüren 系	
khar khüren	tsavidar khüren
zeerd khüren	zagal khüren
ulaan khüren	
kheer 系	
khar kheer	khüren kheer
khul kheer	khökh kheer
bor kheer	buural kheer
shar kheer	ulaan kheer
tsavidar kheer	zagal kheer
zeerd kheer	tsagaan kheer
tsenkher 系	
tsagaan tsenkher	khökh tsenkher
ulaan 系	
bor ulaan	
tsavidar 系	
khökh tsavidar	khüren tsavidar
ukhaa tsavidar	shar tsavidar
zeerd tsavidar	zagal tsavidar
ulaan tsavidar	
shar 系	
khökh shar	zagal shar
ulaan shar	
sharga 系	
bor sharga	saaral sharga
khul sharga	ulaan sharga
khökh sharga	khar sharga

tsagaan sharga

shargal 系

saaral shargal

tsagaan shargal

yagaan 系

khüren yagaan

khaliun yagaan

ukhaa yagaan

zagal 系

bor zagal

khar zagal

alag 系

(基本毛色名の項参照)

\* zagal khökh saaral, tsagaan khongor zeerd 等、基本毛色名を三つ重ねるような毛色名も少なくない。

③ 補助毛色名+基本毛色名

補助毛色名として tsaivar, khilen, büdeg, bügeen, tülenkhiy といった形容詞が付けられるものである。これを付加したものは少なくないが、主に以下のような毛色名がよく現れる毛色名である。

tsaybar bor

tsaybar sharga

khilen khar

khilen kheer

khilen khüren

bügeen bor

büdeg bor

tülenkhiy sharga

④ 固有名詞+基本毛色名

固有名詞を付加した毛色名は、以下に示す通りであるが、豊富なモンゴル語の毛色名の全体から見ると微々たる数といえる。前述したように、日本の毛色名のほとんどが動物名や植物名を借用したものであることを考えると、極めて特徴的である。

chandgan (雪うさぎの) — chandgan tsagaan

tsasan (雪の) — tsasan tsagaan

- eleg (肝臓の) — eleg khüren  
 tsosan (血の) — tsosan zeerd  
 ünsen (灰の) — ünsen saaral  
 shaazgay (かささぎの) — shaazgay alag  
 usan (水の) — usan khökh  
 bulgan (貂の) — bulgan khaliun  
 khulsan (竹の) — khulsan sharga  
 altan (金の) — altan shargal

## (2) 毛の部分的特徴

毛の部分的特徴は、前述の毛色と並んで個体識別の上で極めて重要なポイントとなるものである。この毛の部分的特徴の内、斑紋、頭部や肢部の白徴を「züs」の中に入れる広義の解釈もあり、また実際に「züs」の中に組み込んで理解している牧民も少なくないが、筆者は、「alag」を例外として、これはあくまで部分的特徴であって、個体識別の基本的要素にはならないとみて、「züs」の枠外に置いて考えている。

毛の部分的特徴としては斑紋、頭部や肢部の白徴、たてがみ、尾毛の特徴などに分けられる。この部分的特徴が前述の毛色名に付加されて、個体識別を一層細分化している。

ただモンゴルの場合、斑紋は細かく分類されるが、日本で細かく分類される渦巻き状や放射状などの毛流、所謂旋毛が分類対象にされず、また頭部の白徴、肢部の白徴も日本ほどは細かく分類されないことなどが特徴的である。<sup>(5)</sup>

### ① 斑紋の分類

#### イ. bidert (ey)

肩から肘にかけて、あるいは肩から頸溝、肩端にかけて（両方の場合もある）小さな斑紋が連続してあるもの。khaliun や saaral 系の馬に khar khüren の斑紋、kheer や khul 系の馬に khüren bor の斑紋が最も

多いと言われる。

例：bidert (ey) saaral, bidert (ey) khul

ロ. tolbot (oy)

尻部から腰角にかけて、中央部分がやや大きめで、中央部から遠ざかるに従って次第に小さくなる白っぽい斑紋があるものを指す。buural, sharga, kheer 系統の馬に多いと言われる。

例：tolbot(oy) buural, tolbot(oy) sharga

ハ. buudait(ay)

遠目には見えないような、米粒のような小さな斑紋が全体にあるもの。

例：buudait(ay) buural, buudait(ay) bor

ニ. tsookhor

体全体に大小多くの、多色性の斑紋があるもの。斑紋の色の多少、紋の大きさ、形などから eren tsookhor, khivsen tsookhor, bidertey tsookhor, alag tsookhor, duguy tsookhor, sayr tsookhor などと分類したりする。

例：shar tsookhor, buural tsookhor

ホ. odtoy

斑紋が tsookhor のように体全体に多くあるのではなく、尻部に 1、2 個、背に 2、3 個というように疎らに点在しているもの。buural 系の馬に shargal 系の斑紋というのが多いと言われる。

例：odtoy buural, odtoy khul

ヘ. sevkht (ey)

tolbot より小さく、buudait より大きめの斑紋が体全体にあるもの。buural, saaral 系の馬に ulaavtar 系の斑紋、kheer, khüren 系の馬に tsagaavtar 系の斑紋というのが多いと言われる。

例：sevkhtey buural, sevkhtey khüren

ト. tasarkhay

小さな斑紋の塊が間隔をおいて点在しているもの。bor 系の馬に多いと言われる。

例：tasarkhay bor, tasarkhay saaral

チ. bört

腰角のあたりに大きめの saaral 系の斑紋があるもの。

例：bört bor, bört khar

リ. khaltar

頬、口の周囲、股のあたりが黄色っぽい、あるいは白っぽい毛色のものをさす。主に kheer 系の馬に多いと言われる。

例：khaltar kheer, khaltar khar kheer

## ② 頭部の白徴

イ. sartay

額部分にある白徴を指し、日本の「星」に相当するものである。<sup>(6)</sup> 丸型のものを tögrög sartay あるいは dugarig sartay と言い、小さなものを byatskhan sartay などと分類する。

例：sartay bor ulaan, byatskhan sartay zeerd

ロ. khalzan

額部分の白徴が、「星」が流れるように線状になっているもので、日本の「流星」に相当するものである。この白徴の幅の広さによって、öl khalzan, zurvas khalzan (細い線状)、mankhan khalzan (中太の線状)、melzen khalzan (太幅の線状)と分け、額の上部だけに短く流れたようになったものを magnay khalzan、鼻の部分だけにあるものを khamar khalzan などと分類する。

例：bor khalzan, khalzan kheer alag

ハ. khamar tsagaan

鼻の部分全体が白っぽいもの。

例：khamar tsagaan zeerd, khamar tsagaan khul

③ 肢部の白徴

イ. shiyr tsagaan

肢下部(蹄冠から拒毛の下くらい)にある白斑で、日本でいう「白」もしくは「半白」に相当するものである。どの足に白徴があるかによって dörvön khöl shiyr tsagaan (4肢下部白) とか baruun khoyt khöl shiyr tsagaan (右後肢部白) といった分け方をする。また、この白徴が斑になっていると shiyr alag と呼ばれる。

例：urd khoyor khöl shiyr tsagaan zeerd

ロ. sagag tsagaan

sagag (拒毛) 部分の白徴を指す。shiyr tsagaan と同様、どの拒毛に白徴があるかといった分類の仕方をする。

例：gurvan khöl sagag tsagaan sartay kheer

ハ. khöl tsagaan

khöl といえば一般的に膝より下を指すが(時には足のつけねより下部全体を指す)、毛の部分的特徴をいう場合は足首より下の部分(球節より下)を指す。shiyr tsagaan と同様の分類の仕方をする。

例：khoyt khoyor khöl tsagaan zeerd

④ たてがみの特徴

イ. bujigar deltey

短めで、ちじれて、巻いているようなたてがみを指す。

例：bujigar deltey khliun, bujigar deltey khul

ロ. khyargadag deltey

ほとんど bujigar deltey と同じ。

例：khyargadag deltey bor, khyargadag deltey buural

ハ. khagalbar deltey

たてがみが左右二方向に整然と分かれてたれているものを指す。

例：khagalbar deltey sharga, khagalbar deltey saaral

## ニ. zöv tiysh deltey

騎乗する側（馬と正面に向き合って右側）の一方だけに、たてがみがたれるものを指す。

例：zöv tiysh deltey buural, zöv tiysh deltey khüren

## ホ. buruu tiysh deltey

騎乗する反対側（馬と正面に向き合って左側）の一方にだけ、たてがみがたれるものを指す。zöv tiysh deltey の逆。

例：buruu tiysh deltey khliun, buruu tiysh deltey khar

## ヘ. shankhan deltey

前掲の zöv tiysh deltey が半分、buruu tiysh deltey が半分というたてがみのものを指す。

例：shankhan deltey kheer, shankhan deltey khalzan ukhaa

## ト. deltey

モンゴルでは種牡馬 (azraga) 以外は、たてがみを切るとするのが一般的な慣行であるが、特別な愛馬のたてがみを残すという習慣がある。こうした種牡馬以外で、たてがみの長い馬を単に「deltey」という。

例：deltey khilen khar, deltey zeerd

## ⑤ 尾毛の特徴

## イ. zadgay süült (ey)

豊かな尾毛で、しかもその尾毛の先端が扇状に広がっているものを指す。尾毛は馬に対するモンゴル人の美意識の中で大きな役割を持つ部分である。ふさふさとした豊かな尾毛が美意識にかなうもので、この zadgay süült などにはそれに当る。

例：zadgay süült khar khüren, zadgay süült ukhaa khogor

## ロ. üür süült (ey)

豊かな尾毛で、しかもその尾毛の先端がふっくらと丸まっているものを指す。稀にしかいないので幸運をもたらす馬として珍重される。

例：üür süült khongor, üür süült altan shargal

ハ. shodon süült (ey)

尾が短く、細く、毛も少ないものを指す。モンゴル人には好まれないタイプである。

例：shodon süült saaral, shodon süült tsavidar bor

ニ. oodon süült (ey)

前掲 shodon と同じように細く、短い尾毛であるが、shodon よりは太く、長めのものを指す。

例：oodon süült khul kheer, oodon süült shar tsavidar

ホ. ogotor süült (ey)

前掲 shodon, oodon と同じように細く、短い尾毛であるが、oodon よりも太く、長めのものを指す。モンゴルでは尾毛の貧弱な馬は好まれない。これら shodon, oodon, ogotor は好まれないタイプに属する。

例：ogotor süült ukhaa yagaan, ogotor süült bor alag

ヘ. godil süült (ey)

前掲 oodon süült とほぼ同じものを指す。この呼称は『元朝秘史』に見えるが、現在はほとんど使われていないようである。

### (3) 身体部の特徴

身体部の特徴も、毛の部分的特徴と並んで個体識別を細分化する重要な役目を負っている。ここでは耳、口、鼻のみを列挙したが、これ以外の身体部のあらゆる部分の特徴が観察の対象となる。

例えば、馬の特徴について記述した『Morini Shinj』、<sup>(7)</sup> 『Khurdan Morini Shinj』、<sup>(8)</sup> 『Xhurdan Mori』、<sup>(9)</sup> 等を見ると、背に窪みがあるか否か、額が広いか否か、顎が張っているか否か、顎の溝が深いか否か、首が太いか否か、肩甲骨間の隆起が高いか否か、腰骨がせり上っているか否か、脊椎が湾曲か否か、頭が大きいか否か、胸のせり具合、蹄の形、陰莖の大きさ、臍の張り



具合、股の太さ、耳のつけ根の太さ、耳の中の毛の長さ、歯茎の色、乳房の肉付き、舌の大きさと色等々が驚嘆すべき精緻さで分類されている。またいくつかを例示したが、他の動物の特徴になぞられて、馬の身体部の特徴を巧みに表現する方法が取られたりもする。

身体部の特徴の中で、下に列挙した耳、目、鼻などはモンゴル人の馬に對する美意識にかかわること、更に馬の健康状態、性質などをはかる目安とされることなどから、特に細かに観察される部分となっているようである。

例えば、心臓の具合は目に現れるとされ、また目の色が白っぽいのは臆病であるとか、黒や赤色の目の馬は臆病でないとかいわれる。肺の状態は鼻に（肺が小さい馬の鼻は丸っぽく、肺が大きいと鼻が広がっているという）、腎臓の状態は耳に（腎臓が小さければ耳は薄く、固く、大きければ耳は厚くて柔らかいという）現れるとされている。因みに肝臓の状態は舌に、脾臓の状態は歯茎(10)に現れるとされている。

### ① 耳

#### イ. zev chikhtey

耳の先端が槍の先のように尖っているものを指す。

例：zev chikhtey khar kheer, zev chikhtey buural

#### ロ. khulgar chikhtey

耳の先端が丸まっていて、短く、つぶれたような耳を指す。

例：khulgar chikhtey khul khongor, khulgar chikhtey khaliun

#### ハ. soliboo chikhtey

外見上の特徴ではないが、駆けているとき、耳が左右交互に動く耳を持つ馬をさす。良馬の特徴の一つに挙げられている。

例：soliboo chikhtey buural, soliboo chikhtey khüren

### ② 目

#### イ. tsekher (tsakhir)

まつ毛が短く、瞳が白っぽい(光るような)色の馬を指す。昼間は眩し

がり適さないが、夜の騎乗には適しているという。

例：tsekher zeerd, tsakhir khilen khar

ロ. turlan

青色の瞳に白みがかった目の馬を指す。唇、鼻のまわりが白またはピンク色をしている。日本の佐目（さめ）に相当するようである。

例：turlan tsavidar, turlan shar tsavidar

ハ. ultsan nüd

涙漏の目を指す。

③ 口、鼻

イ. ulaan khoshuutay

口、鼻の当たりが赤、紫色したものを指す。

ロ. möngön uruul

口の周囲が白っぽいものを指す。

ハ. ultsan nüd

本来なら口、鼻の周囲が黒っぽい馬なのに、白またはピンク色にかすれた感じのものを指す。見た目が悪いとしてあまり好まれない。

④ 他の動物等の特徴を利用した表現

イ. 頭<sup>(1)</sup>

araatni tolгой……獣の頭（口、唇が大きく、目が赤く、荒々しい馬）

melkhiy tolгой……蛙の頭（足が短く、額、目、口が大きく、鼻端の窪みが深い馬）

khonini tolгой……羊の頭（湾曲した頭、額が長く、口、唇が大きい馬）

tuulain tolгой……兎の頭（耳、目、顔が大きく、鼻端が曲がり、頭が小さい馬）

khüderiyn tolгой……ジャコウ鹿の頭（小さく、長い頭、目が丸く、耳が大きい馬）

bugain tolгой……鹿の頭（額が小さく、鼻が大きく、肉と骨の間がはっ

きりしている馬)

ロ. 齒<sup>(12)</sup>

temeen shüd……ラクダの齒 (長さが均一で、薄く、硬い齒の馬)

buuday shüd……穀物の齒 (小さな黒斑のある齒の馬)

khonin shüd……羊の齒 (根元が細く、白い齒の馬)

takhi shüd……野性馬の齒 (厚ぼったく、長めの齒の馬)

gakhain shüd……猪の齒 (まっすぐに伸びた、鋭い齒の馬)

ukher shüd……牛の齒 (四角ばった、短い、黄色っぽい齒の馬)

ハ. 馬体<sup>(13)</sup>

chono bietey……狼のような体つきの馬

argali bietey……野性羊のような体つきの馬

unegen bieteï……狐のような体つきの馬

### 3. 馬の性別、年齢等を指す語彙

モンゴル語は馬の性別、年齢を表す特定の語を持っている。年齢を表す場合、日本の出世魚の呼称と同じように、1歳、2歳というような数詞を使わずに年齢を表現し、牡牝の区別も特定の語で表現されるということである。そして、この性別、年齢を指す語彙は、年齢を示す語彙、性別と年齢をあわせて示す語彙、毛色と性別をあわせて示す語彙に分類することができる。

ここで注目されるのは、単純に性別のみを示す特定の語がないということである。人間を含めて動植物すべて共通の雄雌を指す語はあるが、これだけ馬に関する豊かな語彙を有しながら、かつ年齢あるいは毛色と結びついた雄雌を示す語彙を有しながら、単純に性別のみを表す特定の語を持たないというのは興味深い。恐らくこれは、後述する「性別」と年齢をあわせて示す語彙に、2歳までは性を区別する語彙がないことと無関係ではないように思われる。2歳までの子馬には、性別によって異なった役割が与えられないために、

3歳以上の馬が持つような性別と年齢をあわせた呼称がないのではないかと考えられる。

つまり性区分の必要性は、年齢や毛色と不可分であって、年齢を考慮に入れない性区分は役割も明確にできず、何らの意味も持たなかったのではないだろうか。

#### (1) 年齢を指す語彙

馬の年齢の判断は歯の発生、乳歯、永久歯の脱換、それに歯の摩耗状態によって行われている。「齡」の漢字が「齒」偏で表されることでも分かるように、この歯で年齢を知るのはモンゴルに限ったことではなく、世界的に共通したことのようである。

成馬の歯は切歯12本、犬歯4本、臼歯(奥歯)24本からなるが、年齢の判断に用いられる歯は、成長期の一時期に犬歯が用いられるのを除いて、切歯によってほぼ判断されると言ってもよい。とりわけ成馬に達した以後の年齢は、馬体などから推定することも不可能となり、歯の摩耗面の形状、上・下歯の咬合の角度などから判断せざるを得なくなる。

しかし、これら歯の脱換の時期、摩耗の状態などは栄養状態や育成方法などによっても影響を受けると言われ、<sup>(14)</sup> 歯による年齢判断は絶対的なものではなく、一応の目安ということになる。モンゴル牧民に言わせると、14、15歳頃までは1歳と違わず言い当てられるとのことだが確認はしていない。

なお上、下6本づつの切歯は、下顎部から摩耗が進むと言われるが、実際、それは以下に示した「dor dörvön zakh」(5～6歳)と「deer dörvön zakh」(9～10歳)や「dor zakh」(9～10歳)と「deer zakh」(12～13歳)といった呼称からも明らかである。常に「dor」(下)が「deer」(上)に先行して命名されている。年齢を指す呼称は地方によって異同があるようだが、以下に一般的な呼称を挙げておく。

unaga…… 1歳

daaga……2歳

sarvaa……同上。明け1歳の春の終り(4月頃)に尾毛を切る習慣があるが、尾毛を切った以後を指す。

shüdülen……3歳。この頃から乳門歯(前歯)2本が永久歯に生え終わる。ここからこの呼称がついたものと思われる。なお、この呼称は馬のみに用いられるものではなく牛、羊その他にも適用される。

(bitüü shüdülen……乳門歯が生え変わらない shüdülen を指す。)

khyzaalan……4歳。乳隅歯が永久歯に生え変わり始める。shüdülen 同様、馬のみの呼称ではない。khyazarlan とも言う。

soyoolon……5歳。牡馬に soyoo(犬歯)の発生する頃である。ここからこの呼称がついたものと思われる。乳歯は、この頃にはすべて永久歯に変わる。shüdülen 同様、馬のみの呼称ではない。tavlan とも言うが、これはあまり使われない。

khavchig soyoolon……6歳。(成馬)

nas güytssen mori……6歳以上。成熟した馬の意で、6歳以上馬の総称として使われる。

sungakh soyoolon……6歳になったばかりの頃を指す。

dor dörvön zakh……6歳。歯の摩滅状態からついた呼称。以下同じ。

dor büren……7歳。zurgaan togts büren とも言う。

dörvön zakh dagavartay……8歳。

dor zakh……9歳。

deer dörvön zakh……9～10歳。deer nyalkh büren, kharankhuy büren, dor zakh dagavartay などとも言う。

deer büren……10～11歳。

deer zakh……12～13歳。

yaşan shüd khirgüy……13～14歳。

yasan shüid omogdson……15歳以上。 yasan shüid evdersen とも言う。

## (2) 性と年齢をあわせて指す語彙

性と年齢をあわせて指す語彙の特徴としては、前述したように2歳までの馬には、その語彙が皆無であることが挙げられる。また3歳以上の馬も、牝の分類が圧倒的に牝より多いことが指摘できる。これは、モンゴルにおける馬の役割が3歳以上、しかも牝に集中していることを示していると考えられよう。

### ① 牝

#### イ. üree

3～5歳の牝の総称。shülden üree (3歳牝)、khyzaalan üree (4歳牝)、soyoolon üree (5歳牝)のようにshülden, khyzaalanなどを付けることによって年齢をさらに細かく特定できる。またkheer, zeerdなどの毛色を付けてkheer üree (kheer毛色の3～5歳の牝)、zeerd khyzaalan üree (zeerd毛色の4歳牝)のように使われる。

#### ロ. azraga

3歳以上の去勢していない種牝の総称。モンゴルでは一般的に3歳以上(主に3、4歳)で去勢するため、2歳までの馬は去勢されなくてもこの呼称は使われない。üreeの場合と同じようにkhyzaalan azraga (4歳種牝)、soyoolon azraga (5歳種牝)のように、年齢をさらに特定できる。

#### ハ. mori

3歳以上の去勢した牝の総称で、azragaに対応するもの。モンゴルでは一般的に牝馬、種牝馬には乗らないため、乗用馬の総称としても使われる。

#### ニ. ikh nas

成馬に達した(6歳以上)、去勢した牝馬。

ホ. бүдүүн мори

ikh nas に同じ。

ヘ. үireentser

永久歯が発生したか否かの頃（3歳前後）の牡馬を指す。

ト. agt

3歳以上の去勢した牡馬。

チ. akhlaach

3歳以上の種牡馬。azraga の呼称をタブー視して使われるもの。

リ. дүнсер

6歳の牡。主に東部モンゴル地方で用いられる呼称。

ヌ. gunan

3歳の牡。牛、羊等に広く用いられるもので、馬の場合は gunan mori のように使われる。主に西モンゴル地方で用いられる呼称。

ル. дөнөн

4歳の牡。gunan と同じ使われ方。

## ② 牝

イ. baydas

3～5歳の牝の総称。上記 üree に対応するもので、shüdülen baydas（3歳牝）、soyoolon baydas（5歳牝）または kheer baydas（kheer 毛色の3～5歳の牝）、zeerd soyoolon baydas（zeerd 毛色の5歳の牝）というように、üree の場合と同じように用いられる。

ロ. güü

3歳以上の牝で mori に対応するもの。成馬に達した牝馬についてのみを指す場合もある。

ハ. gunj (in)

3歳の牝。gunan に対応するもので、馬の場合は gunjin güü のように用いられる。

## 二. dönj (in)

4歳の牝。gunjと同じ使われ方。

## (3) 毛色と性をあわせて指す語彙

毛色と性をあわせて指す表現として khar, kharagchi といったものがある。すなわち、毛色名 khar, khüren, bor 等は、そのままでは khar 毛色の牝、kheer 毛色の牝を指すことになり、これに「gch(in)」という語尾を付加することによって、khargch(khar 毛色の牝)、khüregch(khuren 毛色の牝)というように、それぞれの毛色をもった牝を表す方法が取られている。

従って、すべての毛色について牝牝の区別がこれでできるわけだが、その役割の低さからか、毛色と性をあわせた表現方法は他になく、年齢と結び付いた語彙と較べてみると極めて単純である。

また毛色は2歳までは定まらず、3歳になってはじめて安定した毛色となる場合が少なくない。例えば、これは毛色の遭伝因子に関連するものであるが、<sup>(19)</sup> 2歳頃まで khar, khüren, zeerd 系であった毛色が成長とともに白色系が増加して bor や tsagaan になったりする。従って、2歳までの毛色は性と同じように重視されず、ここでの khar, kharagch といった毛色+性の分類でも、2歳以下の場合には考慮されていないのではないかと、筆者は考えている。

例： 毛色	牝	牝
khar	khar	kharagch(in)
bor	bor	borogch(in)
tsagaan	tsagaan	tsagaagch(in)
khaliun	khaliun	khaliugch(in)
zeerd	zeerd	zeerdegch(in)
khüren	khüren	khüregch(in)



#### 4. むすび

モンゴルの家畜の中で、馬は羊と並んで貴重な財産である。羊は実質的財産としての価値が大きいのに対して、馬は実質的価値のほかに装飾的な、社会的地位の象徴的な性質を強く持つものであるといえる。優秀な馬群を持つことは、実質的財産である羊群を持つこととは異なった意味で、モンゴル人にとっては大きな喜びである。

従って、馬は「chandmani」（サンスクリット語源—仏のもつ願望をかなえてくれる魔法の宝石の意）といった異名さえ与えられ、「setertey mori」あるいは「ataa」（護符をつけて信仰の対象とする馬）といった馬まで生み出している。「morini shinj」には幸運あるいは不運をもたらすとされる馬の毛色、額、目などの特徴が記述されており、<sup>16</sup>まさにモンゴル人にとって馬は信仰の対象にまでなっていることを示している。モンゴル人にとっては、馬はこのように貴重な財産であり、精神的な拠りどころであるといえるわけで、とりわけ牧民にとっては、より細かな観察を必要とした最大の対象だったのである。

本稿では、馬の個体識別の内、外貌的特徴を指す語彙と性別、年齢を指す語彙についてのみ言及したに過ぎない。このほかにも馬の様々な歩様や、姿勢、肢整、などの細かな分類基準を持っており、また馬の身体的特徴、性癖までを加味した独特の表現方法、例えば *usan chanart mori*, *modon chanart mori*, *salkhin chanart mori*, *gal chanart mori* といった呼称を持っている。また動物の特徴になぞらえた *shubuun yazguurt mori*, *göröösön yazguurt mori*, *araatan yazguurt mori* といったような識別呼称もある。これらは稿を改めて検討したいと考えている。

#### 注

- (1) 拙著「モンゴル語における色彩語」(『亞細亞大学アジア研究所紀要』第10

- 号所載) 1983年。
- (2) 日本・モンゴル政府間文化交流に基づき、モンゴル国立大学に日本語講師およびモンゴル研究のため派遣されたもの。
  - (3) G.Clauson, Turkish and Mongolian Studies, London, 1962.
  - (4) 「bor」という毛色は藍鼠系の色としてとらえられるが、単独で「bor」と呼ばれる馬は、白い馬体にたてがみ、尾毛が黒っぽい毛の馬を指す。
  - (5) 日本で渦巻きや旋毛の分類は『馬の毛色と特徴』（日本軽種馬協会、昭和54年）に詳しい。
  - (6) 日本の「星」の分類は、前掲『馬の毛色と特徴』に詳しい。
  - (7) S.Luvsanvandan, Morini Shinj, Zuumod, 1978.
  - (8) J.Jambaa, Khurdan Morini Shinj, Ulan-Bator, 1971.
  - (9) D.Bandi, Khurdan Mori, Saynshand, 1980.
  - (10) Ibid, S.Luvsanvandan, P.125, J.Jambaa, P.3.
  - (11) Ibid, S.Luvsanvandan, P.89.
  - (12) Ibid, S.Luvsanvandan, P.99.
  - (13) Ibid, S.Luvsanvandan, P.93.
  - (14) 歯による馬の年齢測定については、野村晋一著『概説馬学』（新日本教育図書）、1977年に詳しい。
  - (15) 毛色の遺伝因子については、前掲『概説馬学』に詳しい。
  - (16) Ibid, S.Luvsanvandan, P.192.